### 第5分科会 通級による指導

# 一人一人に応じた効果的な指導や支援の在り方

~切れ目ない支援を目指して |年生の「ひらがな道場」の試み~

秋田県横手市立朝倉小学校 教諭 木村 栄子

### I 実践に当たって

Ⅰ年生の入門期に平仮名の読みでつまずくと、学習意欲が減退し、問題行動を引き起こしてしまいやすい。そのため、なるべく早期につまずきを解消し、楽しく授業に参加できるようにすることが急務であると考えた。本実践は、正式な入級手続きや検査は後回しにした教育相談対応として、6名の児童を通級担当2名(TI木村 T2柿崎りか教諭)でグループ指導した「ひらがな道場」の取組である。

入学して2ヶ月経過した6月に行う平仮名50音の読みのチェックテストで、低得点だった本校の 児童を勧誘し、「ひらがな道場」において遊びを通して平仮名の読みの指導を行った。

対象児童の中には、就学前に「就学時健康診断」の他に秋田県の「就学や教育に関する相談会」や 横手市の「五歳児健康相談」「就学相談会」を受けた児童が含まれている。横手市教育委員会から就 学前の情報を集約した「横手市個別の支援計画ファイル"バトン"」で情報を引き継いだ児童である。 これらの児童に関しては、就学前から教育相談を実施し、入学式に向けた支援を手始めに切れ目ない 支援を目指して対応してきた。「ひらがな道場」もその延長線上の取組である。

## Ⅱ 実践内容

#### | 指導時間

正式な入級ではないので、授業時間ではなく、朝の活動(朝読書)の時間に週 I 回 3 0 分程度の指導とした。その後の在籍学級での学習活動に支障がないように、活動量が多くなりすぎない内容に留意し、気持ちを落ち着けてから在籍学級に戻すようにした。

#### 2 指導回数

令和3年6月 | 8日から | 0月28日まで、計 | 4回の指導を行った。夏休みをはさむことで、家庭での平仮名の学習の励みになるようにした。

### 3 使用教材

市販されているカルタや平仮名カード、インターネットで検索して見付けた五十音表を活用した。



『たべものかるた』 (コスミック出版)

ね	4	わ	き	,;,	る	に	11	6	<
	を	お	ゅ	ょ	す	5	2	V	L
	あ	め	な	せ	け	ら	1)	そ	^
	ね	n	ŧ	ŧ	か	え	う	0	つ
	む	IJ	ゃ	は	た	さ	٧	3	7

アネロンHP より

### 4 指導内容と児童の変容

	活動・教材	ねらい	児童の変容
	「言葉集め」	自分で選んだ平仮名が付く	・「あいうえお」表を暗記して
		言葉を発表し合い、読める平	いて平仮名を読めると勘違い
1	画数の少ない方から	仮名を増やそうとする意欲を	していた児童が、文字として
	順に並べた平仮名表	高める。	平仮名を読むことに気付いた。
	「 〈 しへ 」		・平仮名を全部読めることがゴ
			ールとして意識された。
	「カルタ遊び」	イラストを手がかりにしてカ	・食べ物の名前と平仮名の読み
		ルタ遊びをし、平仮名に親し	を関連付けることで、覚えや
	『たべものかるた』	む。	すくなった。
2	自動読み上げ機械付き	※取ったカルタの枚数で勝ち	・平仮名を読めなくても食べ物
	(コスミック出版)	負けをつけない。	のイラストを手がかりにして
		「平仮名を覚えた人が勝ち」	カルタ遊びに参加できた。遊
		というルール	びを繰り返す中で、読みが定
			着していった。
	「カード遊び」	友達と協力して平仮名を読	・日常生活で触れることの多い
3	くもん式	んだり、言葉を作ったり、五	友達や家族の名前を題材とし
	『ひらがなカード』	十音表の順に並べたりして、	て取り上げると、どの子も取
		平仮名の読み方に慣れる。	り組みやすかった。
	「しりとり遊び」		・平仮名表の文字を指さしなが
		しりとりを楽しみながら、音	らしりとりをすると、音の数
4	5 0 音表	の数や順番を理解する。	や順番を意識していた。
	表は清音		・イラストの手がかりが必要な
	裏は濁音 半濁音 拗音		い児童は、自主的に文字だけ
	(イラストあり なし)		の表を選んでいた。
	「教材文の音読」	言葉のまとまりを意識して、	・逐次読みを「ロボット読み」
		お気に入りの場面を音読する。	スムーズな音読を「人間読み」
5	『国語の教科書』		と教えると、「人間読み」に
	(光村小学校   年)		近づけようと文節を意識して
			読むようになった。



### 【 通級指導教室のプレイルームでカルタ遊び 】

- ※ カルタ遊びのルール
- ○カルタを多く取った人が勝ちではない。平仮名を読めるようになった人が勝ち。取ったカルタを数えない。
- ○カルタを取った人は立って、Ⅰ回休み。
- ○途中の状況を見て、取ったカルタの枚数が少ない人だけがカルタを取れる場面を設ける。
- ○それぞれお気に入りのカルタをⅠ枚選び、紹介する。

### 5 「ひらがな道場」終了後の対応 ~ 支援をつなぐ

「ひらがな道場」が終了した時点で、平仮名の読み書きに支障がなく在籍学級の学習に適応している児童に関しては、指導を終了した。

在籍学級での学習や生活、家庭学習に困難さを抱えていて、引き続き通級による指導の活用につなげたい児童に対しては、平仮名の書きの指導を個別に行えることを知らせ、「お試し通級」として何回か個別指導を継続した。児童が通級指導教室での個別指導の有効性を実感した上で、保護者との教育相談や心理検査を実施した。

心理検査は、横手市教育委員会を通じて特別支援教育アドバイザーに依頼し、検査報告や教育相談において、アセスメントに基づいた支援について指導・助言を受けた。そのことで、児童の課題が読み書きだけでないことを保護者が受け止めることができるようにした。合わせて在籍学級への特別支援教育支援員の配置についても保護者の理解を図った。

また、検査報告等には保護者、在籍学級担任、管理職、特別支援教育コーディネーター、通級指導 教室担当等が同席し、チームとして情報共有し、それぞれの持ち場でどんな支援をするかを検討した。 通級するねらいを明確にして、本人や保護者が必要感をもって入級できるように心掛けた。

# Ⅲ 成果と今後の課題

#### 1 成果

- ・「横手市個別の支援計画"バトン"」の情報を生かして、児童の実態を理解し、保護者が児童の 実態をどのように受け止めているかを把握した上で、対応することができた。
- ・迅速に「ひらがな道場」の指導を開始することで、他の児童との差が大きく広がらないうちに支援することができた。また、夏休み中に平仮名の復習に取り組む意識を高めることができた。
- ・6人の児童の読む力には個人差があったが、音韻認識の向上から文章の音読までスモールステップで指導を進めたことで、指導内容のレベルを上げながら無理なく指導を進めることができた。
- ・グループ指導なので仲間意識をもちつつ、互いに刺激し合いながら楽しく学習することができた。
- ・平仮名の読み以外にも複数の課題を抱えていて通級指導の活用を勧めたい場合でも、平仮名の読みの困難さをきっかけにして保護者と関わると、子どもが取り出し指導されることへの不安感が 軽減された。「ひらがな道場」を通して信頼関係が築かれ、その他の課題についても相談できた。
- ・入級を勧めたい児童と保護者が通級で個別指導を受けることに前向きになり、その後の検査や教育相談にスムーズに移行することができた。(4名入級)

### 2 今後の課題

- ・小学校に入学して初めて子どもの学校生活上の困難さに気付いた保護者には、学級担任が信頼関係を築いてから通級指導教室の担当者につなぐことで、保護者や児童の不安を解消したい。
- ・4月のPTAの際などに、「ひらがな道場」について説明しておけば、保護者の理解が得られやすくなる。合わせて通級指導教室の説明をしながら、理解啓発を図りたい。
- ・平仮名を読めるようになることをゴールにしたが、平仮名を読めるようになって、どんなことを したいのかそれぞれの願いを明確にして取り組めば、日常生活の中で自己評価できる。
- ・集中が続かない児童にみんなと同じ活動を無理強いしてしまった場面があった。指導者が二人いたので、臨機応変に分かれて興味のもてる別の活動をさせた方がよかった。
- ・「ひらがな道場」の終了後に入級する際、退級するためのゴールをしっかり見据えて通級指導を 開始し、関係者がそれぞれの場面で児童の状況を評価できるようにしたい。